令和元年度第２回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

１　テーマ：今こそ、地域を守る消防団に若い力・女性の力を！
２　日　時：令和元年７月１２日（金）１４：００～
３　場　所：岡山県消防防災航空センター会議室（岡山市北区日応寺７６１－１）
４　参加者：消防団や大学生消防応援隊など、消防活動に関わる方等：８名
５　知事挨拶

地域を守る消防団は日頃から頑張っているが、団員数や平均年齢などの問題があり、若い力をどのように取り入れていくのか、女性にどのようにがんばってもらうのかということについて、皆様から意見をお聞かせいただきたい。

昨年の７月豪雨災害時には、消防団員、消防職員、自衛隊、警察等に本当にがんばっていただき、頼もしく思った。普段、救助というと３人や５人を助けるというレベルが多いが、３００人いるのか１，０００人いるのか分からない中、全県で３，０００人以上もの人々が自宅に取り残されていた。いざという時に皆様のような方々がいてくださり頼もしいと実感した。

本日は、いろいろな形で消防活動や地域を守る活動に従事されている皆様から、ぜひ話を伺いたい。

６　発言要旨

【自己紹介、平成３０年７月豪雨災害時の活動】

・大学のサークル活動で規律訓練やロープ結索、トレーニングなど行っている。また、学外での消防防災イベントに積極的に参加している。昨年の豪雨災害時には２度ボランティアに参加し、家財の運び出し等を手伝った。被災者からお礼を言われた時の感動は忘れられない。
・昨年の豪雨災害時に感じたことは、倉敷市と総社市の動きの差。総社市は準備ができていたと思った。真備町では、消防や警察だけでなく、一般市民がボートを出して救助に当たり多くの人が救われたが、高齢者がボートを漕ぐというケースもあったので、そこは若者の力を使うべきだと思った。
・昨年の豪雨災害時は帰宅できなくなり、友人宅に泊まったが、そこも浸水しそうになったので中学校に避難し、避難所では市役所の方の手伝いをした。避難時には、夜間ということもあるが、情報が少なく被害状況や浸水状況等が分からなかった。
・マーチングバンド部に所属しており、音楽を通じて被災地に希望を届ける取組をしている。昨年の災害では、真備町に友人宅が多くあり、数日後に手伝いに訪れたが、知っている景色とはかけ離れていて言葉が出なかった。岡山県に住んでいて、大きな災害もないため日頃からの備えを重視していなかった。災害後に非常持出し袋の準備や、災害時の集合場所を決めた。
・消防士を目指しているので消防活動を実践しながら学べること、また普通救命講習の資格を持っているので救急に関する知識も生かせると思い、昨年入団した。火災出動や住宅用火災警報器の設置状況を調査する個別訪問、訓練、操法大会等の活動に参加している。昨年の災害では市内の池の堤体が崩落したため監視活動

が任務としてあったが、大学の授業で行くことができなかったので、後日真備町へボランティアに行った。その際、被災者から「若い人が来てくれて嬉しい」といった言葉をかけていただき、若い力は大切だと実感した。

・昨年の豪雨災害時には、町職員として業務に就いており、被害状況の聞き取りや避難所運営に携わった。消防団は避難の呼びかけを行ったが、女性団員は自宅待機だった。他の市町村の被害を見て自分のことに感じ、災害時に何ができるか団員で考えて、防災テントや簡易トイレを実際に使ってみたり、防災士を招いた防災学習会を行った。

・平成２４年から町の防災・消防担当をしている。また、消防庁から消防団等充実強化アドバイザーを委嘱されている。消防団にも所属し、昼間は団員が不在の地域をカバーし、夜間は地元の団員の後方支援を行っている。今年初めて県消防操法訓練大会で町の女性団員が総指揮者をした。７月豪雨では、団員は仕事がありながら徹夜で土嚢積みや避難誘導をした。この災害を通じて公助共助だけではできない部分が見つかり、今後は自助が大事だと感じた。

・普段は現場には行かず、事務方の仕事をしているが、７月豪雨時には土砂崩れで逃げ遅れがいるという事案で現場確認に行った。土石流が発生しており、団員とともに避難誘導を行った。翌日も冠水地区でボートを呼んで住民の避難を行った。市内が落ち着いてきた頃、真備へ応援に行き、捜索活動をした。課題は、雨や河川の状況が直ぐに入って来なかったことや出動した隊の交代要員が足りなかったこと、県・市役所との情報のやり取りが上手くいかなかったことだ。

・人間は聞きながら考えて、同時に指示を出すのは難しい。昨年の災害では市が得た情報が県庁に上がってなかった。市の中でも消防が持っている情報が市役所に届いてなかった。現場はかかってくる電話に対応し続けていて、情報を整理して上に報告しようという人がいなかった。あれだけの災害が起きた今だから思うが、そこまでの準備ができていなかったことに気づいた。

【消防に携わったきっかけ】

・もともと消防･警察等の仕事に携わりたいと思っていたが､昨年の災害を経験し、改めて公安系の仕事に就きたいと思うようになった。野球やテニスをしており、体力には自信があったことと地域のためになる仕事がしたいと思っている。。

・大学では危機管理学科に所属していて災害について考える機会があり、これから必要な人材だと思った。

・小学校の時、近くの川で子どもが亡くなったのを見て、人の役に立つ仕事がしたいと思い、最前線で活躍する消防士を志望した。

・元々、保育士・幼稚園教諭を目指していたが、昨年の豪雨災害を見て地元に残ってできることを考えた時に、市の消防女子プロジェクトというサイトを見て、女性でも消防の最前線で活躍できると知り、憧れからなりたいという気持ちになった。

・大学の同級生等、若い人は消防団を知らないので、消防団の現状を知ってもらうのが大事だ。団員数は減っているが、女性や学生の団員数は年々増えているというデータがあるので、その点をアピールできたらと思う。また市では学生消防団

活動認証制度が始まり、学生時代の団活動を就職先にアピールできるので、この制度を広めていけば学生の人材確保ができるのではないか。

・役場の先輩や消防担当からの勧誘で入団したが、防災意識は高くなく、消防士や消防団の仕事も分かっていなかった。１０年近く活動している中で、町民に喜んでもらえてやりがいが出てきた。知ってもらうことは大切なので、保育園での防火防災紙芝居や小学校での消防団活動紹介、小中学校での救急救命講習等を通じて興味を持ってもらうよう活動している。

・女性が最前線で活躍できるとは知らなかったという話があったが、実際昔はその通りで、危ないところに女性を連れて行くなんて…とされていたが、５年ごと、１０年ごとに状況が変わって、今の小学生は現場で活躍している女性を見ると見る目が変わるだろう。

・女性団員は増えているが、それに伴って活躍できる環境が整っていない。例えば女性や学生、消防士、行政関係者等いろいろな立場の人が集まって意見交換できる場があれば、消防団のＰＲもできるのではないか。また、全国女性操法大会に出たが、岡山県では持ち回りになっているので、次に出られるのは１００年後ぐらいになってしまう。

・男性は県大会を開催し、優勝したところが出ることになっているが、女性の場合は、どこの市町村でも操法をしているわけではないため、備前・備中・美作の持ち回りで、各地区協議会内で話し合い代表を選出している。

・女性は控えめなので男性と同じように出たくてもできないことがあるが、機会を与えられればやりたい人は潜在的にいるので、県大会を開いていただけると励みになる。

・メリットが少ないなら大変な大会をやる必要はなく、現実に即したやり方を考えてほしい。

・市の団員数は人口規模に比べて多いが、高齢化等で団員数を増やすのは難しいので、学生や女性への声掛けを積極的にしていきたいが、なかなか上手くいかない。

・田舎暮らし・Ｕターンの記事の中で、結婚相手の地元に付いていくと、戻った途端、週末ごとに消防団活動を行い、この地域ではそれが当たり前だと言い、ほったらかしにされるという記事を読んだことがある。昔はそれが当たり前の世界だったが、これから入ってくれる人達に入って良かったと思ってもらえるよう活動内容の整理も必要かもしれない。

【若者・女性への拡充策など】

・消防団は火消しのイメージが強いので男性は入っても、女性は前線に出るのはちょっと…という人がいるので、予防係やサポート係の仕事があることを伝えていければと思う。大学のオープンキャンパスで災害時の活動発表を行ったが、そのお陰もあってか今年はサークルに女性が２名入ってくれた。

・女性が消防団に見学に行くのは壁がある。１人に１台スマホがある時代なので、ネットで情報発信すべきだ。せっかく応援隊を結成したので、他大学と連携してどのような女性の活躍の場があるかを話し合い共有したい。学生向けのインターンシップがもっとあれば仕事を知る機会が増え、やりたいと思う人が増えると思

う。

・所属している分団では自分の次に若いのは４０代で、親子くらい離れた人がいて、それを敬遠して入らない若者もいる。土日は休みたいとかアルバイトがあるという理由で参加したくない人が多いと思うので、市消防団の中に学生だけの分団を作ると変わるのではないか。

・女性団員は１０～５０代までいて、和気あいあいとやっている。子どもの頃から消防団の活動を認識してもらうのはとても大切で、活動内容を記載したクリアファイルに入団申込書を入れていろんなイベントで配ったり、小学校の授業で制服を着てもらったりして、楽しいというイメージを持ってもらう活動をしたい。

・小学校にその地区の消防団員を派遣し、操法を見せたり、消火器の使い方を教えたりしている。今年からこれを全小学校に広げたいと取り組んでいる。

・消防署に小学生が見学に来た時、消防職員になってとは言うが、消防団員になってとは言っていなかったように思う。将来、消防職団員に興味を持ってもらえるような見学方法を考えなければならないと思う。

・昨年の豪雨災害時に、学生がボランティアに行く手段が無くて困ったので、いざという時に学生がボランティアに行きやすいマニュアル等があると良い。

・自動車運転免許制度が変わって普通免許の重量が下げられたので、今、消防団に若者が入ったら大きい車両は運転できない。都道府県によっては免許取得の補助を出しているので、そのような補助があればアピールできるのではないか。また、率先して自主防災組織を作れば岡山県全体で防災意識の向上につながるのではないか。

・自主防災組織について県では、そもそも起きないもののために備えるのもどうかと考える人が多いことから、しっかりできていなかった。いざという時には、普段からの準備やリーダーの存在など、実力が試される。

・大学では一人暮らしの友人も多く、頼れる人がいないとか県外出身者は避難先も分からないと言っていた。大学生も地域の避難訓練に参加すべきだ。

【知事まとめ】

・これまで１年間、災害の対応・準備についていろいろ考えてきたつもりだが、考えたこともなかった課題や新しいアイデアをいただけた。皆様は一般の方より意識が高く、小さい頃から自ら率先して行動をしておられ、ありがたく思う。皆様の仲間が増え、地域を守る活動が広がることを願う。